66

西牟婁郡すさみ町小泊

上ミ山古墳

枯木灘をのぞむ本州最南端の横穴式石室

40m
6世紀前半

上ミ山古墳からみた枯木灘

上ミ山古墳はすさみ町の西、小泊にあり、湾を見下ろす標高81メートルの上ミ山の頂上に位置します。ホテル跡からは山道を15分程度歩くと古墳に着くことができます。

上ミ山古墳は6世紀前半の古墳であり、直径40メートル、高さ4メートルの大型の円墳と考えられています。古墳には横穴式石室2基と箱式石棺1基が築かれています。発見された時にはすでに造成工事により、古墳の大部分が壊されてしまいました。東側の横穴式石室については、石室が露出し天井は崩れていましたが、かろうじて破壊をまぬがれています。現在、石室の上半部が復元されて石室内部を見学することが出来ます。

横穴式石室は南に入口を持ち、石室の玄室に入る羨道と呼ばれる入口が石室奥から見て右側に取

所在：西牟婁郡すさみ町小泊
見学：自由。出土品はすさみ町立歴史民俗資料館に展示。
指定：未指定。出土品は県指定文化財
P：なし
公共交通：JR紀勢本線すさみ駅からタクシー10分。徒歩30分。
おススメ度：★★★
難易度：★★★

り付きます。玄室は長さ2・3メートル、幅2・1メートルのほぼ正方形となります。玄室の床面には石が敷かれ、石室は7枚の板石を組み合わせて、奥から3つの区画に区切られています。この区画にはそれぞれ刀、鏃、玉類、農工具が供えられています。玉類が集中することから、頸飾のような形で装着されていたと考えられます。また、それが区画の東側に偏ることからそれぞれの区画に頭を東にして、人が葬られたと考えられます。

復元された上ミ山古墳の横穴式石室

上ミ山古墳は墓に供えられた品々が多く、中でも玉類は種類が豊富で、日本各地で取れる宝石を用いています。碧玉製の平玉・管玉、水晶製の棗玉・切子玉・算盤玉・丸玉があり、これらは日本海側で産出します。また、松脂などの樹液が化石となった琥珀で作られた棗玉・小玉、琥珀や樹木が地中で炭化した埋木で作られた棗玉などがあり、琥珀や埋木は岩手県や千葉県で産出し、運ばれたと考えられています。出土品はすさみ町立歴史民俗資料館で展示されています。

上ミ山古墳は玄室の形が正方形で、板石を組み合わせて「石障」と呼ばれる区画を作ることから、肥後地方の横穴式石室と関係があるという指摘があります。

この古墳からは美しい枯木灘と周参見湾とそのシンボルの稲積島をのぞむことが出来ます。葬られた人物は枯木灘のはるか西からやって来たのでしょうか。